

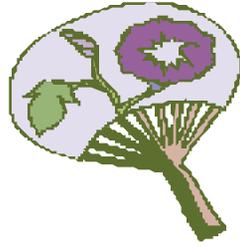
# 『NEWデリバリー通信』 Vol.20

暑い季節となり、大町はお祭りやイベント盛りだくさんのシーズンに突入。昨年はお祭りやイベントが行われる日に限って雨でしたね。我が家は稚児行列の時も、海に行こうと計画した日も雨。今年の天気はどうか(^\_^;)

発行元：大町デリバリーサービス松尾新聞店

発行枚数：2600部

発行日：不定期 宅配されています信濃毎日新聞・朝日新聞・毎日新聞・産経新聞といっしょにお届けしております。ご意見ご感想お待ちしております！



<読者プレゼント！> 今年も暑い季節がやってきました！大町デリバリーサービス松尾新聞店 この時期のお約束 うちのプレゼント(\*^ ^\*)。

ご希望の方は当店までご連絡ください！お届けに伺います！（左の画像はイメージ図です）数に限りがありますのでお早めに！！



## 大町巡拝の旅 『仁科三十三番札所めぐり』

第8回目となりました『仁科三十三番札所めぐり』、二番札所の弾誓寺、六番札所の青龍寺、十七番札所の夕陽庵の紹介。

<二番札所 弾誓寺 たんせいじ >  
『ただ頼め 頼めば すぐに御仏の 国に導く 法の誓いを』



弾誓寺（たんせいじ）は鎌倉時代中期に、この地方を治めていた「仁科氏」が、その居館を、館の内から大町（現・天正寺の場所）に移したさい、木舟の常福寺を併せて移し、祈願寺としたものとされる。天台宗の寺だったが、仁科氏滅亡後の江戸時代初期、弾誓上人により再興され、一時は19人の僧侶がいる比叡山直末であった。明治4年、廃仏毀釈により廃寺となり、仏像なども各地に四散した。残った建物は、その後中学校の仮校舎などに利用されたりしたが、現在はない。現在は曹洞宗寺院として再興。境内に入っすぐ左に、東に面する堂が仁科二番札所とされた堂です。仁科氏の念持仏だった木造聖観音立像は県宝指定。観音堂と観音像は保存会により護持されている。

<六番札所 青龍寺（青柳寺） せいりゅうじ >  
『吹く風に 任せてなびく 青柳の 姿にならえ 人の心も』



霊松寺の十五世国安道播が隠棲の場所としていたといわれる。また仁科氏最後の城主・仁科盛政が若い頃住んだとの言い伝えも。毎年8月下旬には地元の人たちにより「青龍寺祭典」が開かれている。寺の近くには子安地蔵がまつられている。明治の廃仏毀釈には、この寺は幸い廃寺をまぬがれた。その後、建物は建て替えられ、東向きの小さな建物となっている。本尊は釈迦如来坐像で京仏師の作らしい、小さいが美しい像である。ご詠歌から「青柳寺」とも呼ばれている。近くに芭蕉の句碑「木のもとに汁もなますも桜かな」がある。



<十七番札所 夕陽庵 せきようあん >  
『此の寺の 入日の影を 見てもなお 願う心ぞ 西に傾く』

大町から長野へと通じる「善光寺街道」わきの大町市三日町にある。三日町は分水・大笹・来見原の三つの村が一緒になり三カ村となる、後に三日町となった。付近には遺跡（来見原遺跡、借馬遺跡）や古墳（大笹古墳）などがあり、古くからこの地に人が暮らしていたことが伺える。主要地方道長野大町線の旧道から少し入った場所にある。

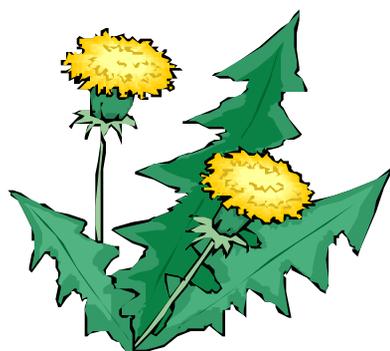
池上 彰 の著書  
小学生から「新聞」を読む子は大きく伸びる！

NHKテレビ「週刊子どもニュース」でお父さん役を務め、わかりやすいニュース解説をしてくれ各局テレビでもお馴染みの顔となっています 池上 彰さんが書いた<小学



生から「新聞」を読む子は大きく伸びる>を読者の方に貸し出し致します。新聞にはさまざまなジャンルのニュースが記載されていますが、学校で習った知識がなければこれらのニュースを読み解くことはできません。地理や歴史がわからないと国際政治のニュースはわからないし、数字を読む力がないとマネー関係のニュースがわからない、読解力がないとそもそも新聞の文章さえ理解できません。ニュースがわかれば自分が社会の一員であり、世の中の出来事と決して無関係ではないと理解できるようになります。ニュースをわかろうとすることで、知識や考える力が身に付きます、新聞は社会と自分との関わりを知ることでなく、生きたニュースを題材に学力を高めることができる最高の教材だと池上さんは書いています。

いつもどこかで <都会の公園の片隅で>



「東京ではタンポポまで公共の財産なんですか？」若い母親から電話をもらったのは、社会部都内版のデスクを務めていたころだ。もう20年近く前である。娘さんを連れて自宅近くの公園に行くと、タンポポが咲いていた。ふたりで黄色いタンポポの花を摘んでいると、自転車で通りかかった男性から注意された。「ダメだよ、タン

ポポを摘んじゃ。公園のタンポポは公共の財産、みんなのものなんだから」母親の故郷北海道では、タンポポは子供たちの大事な遊び道具だった。たくさん摘んで冠に編んだりしたのに。彼女の話小さな記事にすると、予想通り、賛否両論が届いた。意外だったのはタンポポ摘み「禁止派」が半数近くもいたことだ。「摘んだらタンポポはしおれてしまう。可哀想だから見るだけねと娘に教えます」という。容認派もいて、子供は摘んだタンポポが手の中でしおれるのを見て草花の生と死を感じる。遊ぶことで花の美しさが、自然を大事にすることにつながると説いていた。なかには、在来種のカントウタンポポは貴重だが、セイヨウタンポポならいくら摘んでも構わないという人もいた。「虫を殺すな」と昆虫採集を禁じるのと同じく、背後には生命を頭だけで理解する社会がありそうだ。生命の尊厳は、実物を見て感激したり、捕まえて刺されたり、全身全霊でぶつかって初めて体得できるのでないだろうか。公園には、どっさりタンポポが咲いていて、自由に摘めるようになってほしい。新聞記者・清水 弟（山形県・鶴岡支局）



新聞に載らない内緒話！

<同窓会有情> 中学校の同窓会幹事を10年以上、務めている。正確には同級生だけの会だから、同期会と呼ぶべきものなのだろう。余談だが、つい最近まで「2007年問題」という言葉が流行った。この年、団塊世代が一斉に定年退職、社会に対する影響、彼らの老後の行方が口の端にのぼったのである。私たちは団塊世代の少し後に生まれ、「新人類」と呼ばれる世代のはざ間で生きてきた。大学紛争には間に合わず（別に苦しんでいるわけではないが）、新しい価値観にはちょいとかみ合わない、当年56歳の世代である。中学校は1960年（昭35）に創設され、来年が50周年になる。戦後のベビー・ブーマーに対応すべく、次々と建てられた学校群は今ごろがそんな節目の時期を迎えたようで、街中を歩くと「50周年」を祝う横断幕をよく見かけるようになった。当時はクラス50人にちょっと欠ける編成で、私たちの学年は7クラスあった。少しずつ、富める者と、貧困から脱出できない者がまだら模様で、格差が芽生え始めたころであろうか。その後、オイルショックに驚き、バブルでにわか天国を経験した。同窓会の名簿は卒業生約350人中、130人ほどが整備され、例年往復はがきで出欠を求めるのだが、返答率は約60%で、出席は先生方を含め30人ほどというのが最近の平均である。「長女に赤ちゃんが生まれました」「孫1人、元気に育っています」という明るい報告があれば「一人息子が亡くなりました。出席の気分にはなれません。元気になったら」という胸がヒリヒリするような返事も届く。「メタボ対策でジム通い。その後に一杯、これじゃダメじゃん」と、おじさんの悩みも伝わってくる。白内障、高血圧、糖尿病で欠席も増えてきた。身辺ただならぬ年回りになってきた。いまだに転勤を繰り返す友人もあり、スナックを経営する女性は「12周年を迎えました。飲みに来て頂戴」とのお誘いである。「欠席」のひと言で終わる返信もある。返事のこないはがきもある。それぞれが、それぞれの人生を送っているのであろう。無名人の、平穏な人生を願うばかりである。

人間万歳 川村二郎

昭和二十年代の半ば、小学校の学校給食は脱脂粉乳にコッペパンが一つだった。学校から帰ると、玄関に入るなりランドセルを投げ、「お母さん、なんかなあ。腹、減った」と言うと台所の方から、「ジロー、ちょっと待ちなさい。今、何かこしらえるからね」と母の声がして、四、五分すると、チャーハンやオムライスが出てくる。それをかきこんで飛び出す。思い返すと母の恩とは、頼めばどんなときでも何か食べさせてくれる、救いの神だったことではないかという気がする。言葉は悪いが、母には餌づけをされていたから、いくつになっても頭が上がらなかったのではないかと思う。川村サクは、十年前に九十歳で亡くなった母だが、母のことを書く気になったのは、ソフトバンクのテレビコマーシャルのせいである。若尾文子さん扮する母親が息子の白い犬に、「ジロー、どうしたの」と言う声を聞いたときは、一瞬、ドキリとした。親不孝息子の悲しいさがである。母の日に一度、花束を持っていったことがある。母は七十をとうに出ていたが、花束を渡すと、「まあ」と言ってほおを赤くした。かえってこちらが照れくさかった。息子は勝手なもので老いていく母の姿は見たくない。徐々に足が遠のき、母の日も誕生日の祝いも、電話ですませるようになる。母の日や何待つとなく髪梳すきて 母の句を思い出す度、胸が痛む。

(有)大町デリバリーサービス松尾新聞店

大町市大町2675-7(ハローワーク大町すぐ近く!)

電話:フリーダイヤル 0120-030553

FAX 0261-22-8402

HPアドレス : http://shimbun.web.fc2.com/

